

広報

ロータリー



発行 令和2年(2020)6月30日

季節のたより

No.42

平田ロータリークラブ クラブ広報・公共イメージ委員会



HIRATA ROTARY

ロータリーは

人道的な奉仕を行い、あらゆる職業において高度な道徳的水準を守ることを奨励し、世界における親善と平和に寄与することを旨とした実業人、専門職業人が世界に結び合った団体です。

1業種5人以下、週1回のクラブ例会を通じ親睦を深め、職業を通して地域社会へのより多くの奉仕の機会を得ようとはかっています。

名称 平田ロータリークラブ

所属 国際ロータリー第2690地区第4グループ

創立 昭和49年5月30日(1974年)

会員数 42名(令和2年6月1日現在)

クラブ例会 毎週木曜日12時30分～13時30分

事務所 〒691-0001島根県出雲市平田町2280-1

平田商工会議所内2F

TEL(0853)63-3232 FAX(0853)63-5365

ホームページ <http://hirata-rotary.jp/>

平田船川の水運によって木綿の集散地として栄えた平田の歴史を色濃く残す木綿街道の旧石橋酒造跡に、宿泊施設「NIPPONIA 出雲平田 木綿街道」がオープンしました。石橋酒造閉店後は、老朽化した建物の雨漏りや、庭園にはタヌキが走り回るほど荒れた状態でしたが、かつての姿を残しつつ内部をリニューアルされ、母屋と一部の酒造場部分は宿泊施設に、酒蔵部分は「文吉たまき」として飲食スペースに、また別棟の土蔵を「coffee stand 李庵」としてカフェが開店、木綿街道の旧石橋酒造・本石橋邸・旧長崎医家(木綿街道交流館)が連なるなまこ壁の街並みは古の面影を残しつつ、新しい商業施設としてこの街に新風が吹き込もうとしています。



2019～2020年度を振り返って

2019-2020 年度 会長

持田 稔 樹



国際ロータリーの会長、マーク・ダニエル・マローニー氏は、2019-20年度は、「ロータリーは世界をつなぐ」のテーマの下、ロータリーの奉仕を通じて、有能で寛容な人びとが、手を取り合い行動を起こす「つながり」を築きましょう、と述べられています。

また国際ロータリー第2690地区（岡山・鳥取・島根）の古瀬俱之ガバナーは地区目標を「I'm a Rotarian!」とされ、ロータリーの究極の目標は、「会員の増加・退会者ゼロ・楽しいクラブ」にする事だとおっしゃっています。その為には、中長期目標を掲げ、それに向けアクションを起こす事だと、述べられています。

今年度より当クラブでも「未来ビジョン委員会」が始動しました。

今後は、単年度では成し遂げられない事業やクラブの人事、地域に対する奉仕活動などが、計画的に遂行出来ると思います。昨年度の創立45周年記念事業では、「ロータリーは地域と共に」のDVDを製作しました。この地域の「次の担い手」は若者です。クラブの「職業奉仕、青少年奉仕」等を通じて「人づくり」に貢献しなければと考えています。この地域唯一の高校、平田高校でも、「地域課題解決学習」に取り組まれています。全国で20校の中に取り上げられ、今後3ヶ年間は継続事業となりますので、当クラブも協力して参りました。この街でも人口減少はもはや避けられず、人口が減るという事は、産業規模も縮小するという事です。そして、後継者問題も大きな課題です。私たちの「職業」は、この地域が拠点で、この地域に支えられています。すべてはこの「地域を存在させる事」が肝要だと思います。「母川回帰」の言葉通り、高校生が地域に出て触れて考えて思い出を残し、そして、新しい人材となって帰って来てもらう事が大切です。これが、この「地域が生き残る道」だと私は思います。

本年度の平田ロータリークラブテーマは「ロータリーは地域と共に」としました。

地域と共に歩み、親睦と融和を図り、楽しめるクラブを目指して活動して、平田ロータリークラブは、昭和・平成・令和と歴史を重ね、次の50周年に向けて第一歩を歩み始めました。



1 年を振り返って

2019-2020 年度 幹事

杉原 朋之



昨年7月、第1例会で幹事報告をしてからあっという間の1年間でした。ロータリー経験の乏しい私が幹事を無事終えることが出来たのは、会員の皆様の温かいご支援ご協力があり、各事業・例会を盛り上げていただいたからこそです。心から感謝御礼申し上げる次第です。また、3月から新型コロナの影響により、例会・事業がすべて中止・自粛になりその対応に追われ本来のロータリー活動、例会運営が実現出来なかったことは非常に残念に思います。

只、この1年でクラブ運営について大切なことを学びました。「クラブ活動は自らが行動すること。クラブ内、会員間のコミュニケーションを円滑にすること。重要事項は必ず理事会で審議・決定し、例会で全会員の了承を確認する。」当たり前と言われそうですが、改めて再認識いたしました。

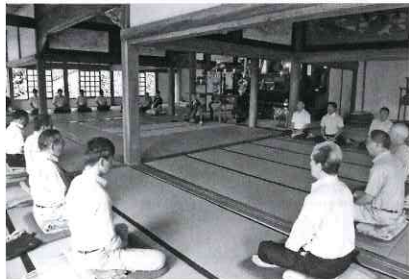
ロータリアンとしてこの一年で与えて頂いた経験を糧に、「打倒新型コロナ」をモットーに平田経済をますます発展させるべく、より一層ロータリー活動を邁進していきたいと思っております。末筆ながら、皆様のご多幸ご健勝をお祈り申し上げます。

例会

◆令和元年 7月11日

一畑薬師で早朝座禅例会

平田ロータリークラブ会長 持田 稔 樹



会長挨拶「建築家として」

皆さまが、この法堂にあがって来られた頭上の大きな高さ90cmもある木材を「差し鴨居」といい、建具が入る溝の付いた「鴨居」と「構造材」が一体化したものです。この法堂は一般の木造住宅と違って、この広さなのに、壁がありません。それでも、この建物は地震にも耐え、風にも耐えて江戸時代の文化年間(西暦1800年初頭)から200年余り経ています。それはなぜでしょうか？ それは、この差し鴨居の90cmもある「高さ」に秘密があります。そして、ここの柱は30cm角、これは一般住宅の体積比で約7~8倍の強度を持っています。差し鴨居と柱を組み合わせることを、仕口を作る、と言います。この大断面の仕口を優秀な職人が作ると、90度が固定され、角度が動くことが有りません。その「剛接合」された仕口が、バランスよくそして沢山配されて強度を保ち安全なのです。それは、こんにちの鉄骨や鉄筋コンクリート造の建物と同じ考え方を昔からしていたのです。

幸田露伴の小説に、「五重の塔」というのがあります。そこに出てくる大工十兵衛が新築した五重塔に向かって「台風」がやってきたのです。倒れたら大変な事になると、街のみんなが不安がり、大騒ぎになってしまいました。そこで、十兵衛は塔の天辺に登り、自分の体を九輪に縛りつけ、皆を安心させました。十兵衛は自分の命を懸けて安全を証明したのです。そのくらい技術を磨き勉強をし、建物を建てろと言われました。

◆令和元年 12月5日

旧石橋酒造の利活用について

有限会社 玉木製麺代表取締役 玉木 暢 様



平田は玉木家の本家の地です。2017年から宿泊と観光事業と地元産品の販売を企画していました。木綿街道では、商店が長い歴史の中で商売をされています。酒石橋は当初立ち入りできない状態でしたが、建物は素晴らしく、歴史と文化を感じる場所でしたので、お店として展開したいと考えていました。全国でも古民家の利活用は課題となっています。

かつて原文吉製麺として平田で製品化されていたうどんを、20年前に文吉うどんとして製品化しました。平田の街はかつて大きな商業の街で、松江と出雲の中間で空港も近い。石橋の蔵を活用し、文吉うどんをきっかけとして文化の集積地として表現したい、歴史ある商店と文吉うどんと宿泊が結び付けば輝かしい街になるのではないかと考えていました。本物を知る方に長期の滞在と足を運んでもらえる街にするため、まずは催事とカフェなどの小さな展開から大きな展開を進めていきます。

文吉うどんはうどんにもパスタにも利用できる面白いうどん、斐川のケチャップで出雲ナポリタンを開発しました。地域・世界を旅する創作和麺です。文吉たまきは1月末日のオープンを予定、ロゴは水引と平麺をイメージしています。

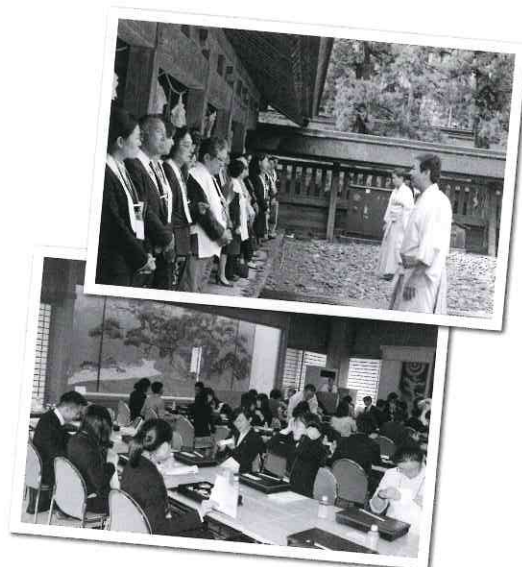
今後の発展として、県内外の方に平田に面白いものができたことを宣伝して足を運んでいただきたい。出雲や斐川から県外に出た人が地元に戻ってきたくなるような魅力を伝える事業展開をしたいと考えています。「神様のひとさら」出雲・平田・雲南の食材を用いて、一つ星のシェフにお願いして石橋の中庭でフェスを開催したい。全国から注目される街にしたい夢がたくさんあります。料理の楽しさ美味しさを求めて、県外から帰ってきてもらいたい。

これからも事業を続け、縁を大事にしたいと思います。

奉仕プロジェクト

平田ロータリークラブは 地区大会でエクスカージョンを担当

国際ロータリー2690地区には岡山・鳥取・島根の66ロータリークラブ約3000名の会員が所属します。昨年10月19・20日に出雲に於いてこの地区の大会が出雲市民会館・出雲ドームを主会場に、約2000人が参加して地区大会が開催されました。平田ロータリークラブはこれを機会に出雲を訪れるメンバーのエクスカージョン（観光）を受け持ち、約90名を出雲大社をご案内して、今回は特別に正式参拝と出雲大社 社務所 大研修室でお食事をしていただきました。



暮らし生活無料相談

平田ロータリークラブには、医師・税理士・社会保険労務士・司法書士・建築士などの国家資格を持った会員や様々な専門職業の会員が在籍します。2月2日ショッピングセンター VIVA の一室で「暮らし生活無料相談」を開催しました。



歳末高齢者福祉募金

社会奉仕委員会

12月12日忘年例会の際に会員から募った歳末高齢者福祉募金を「万田の郷」・「るんびにい苑」に寄付いたしました（12月27日）。



新型コロナウイルス感染症



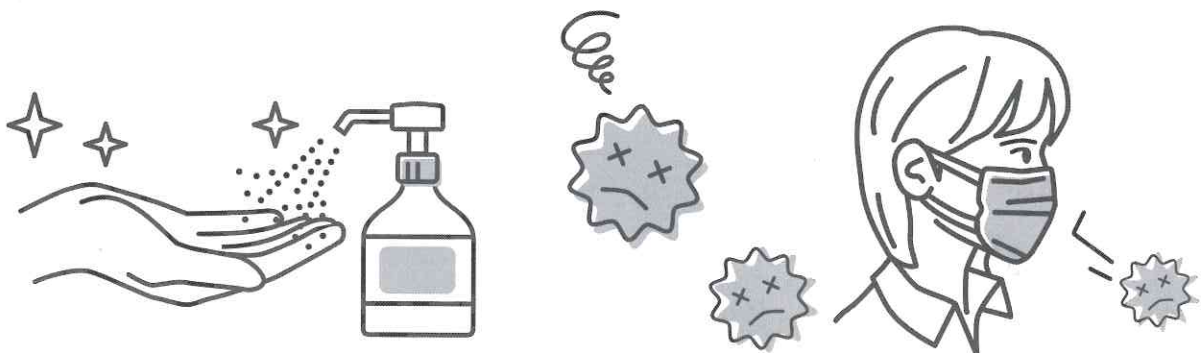
会員 佐々木 哲也(医師)

およそ 100 年前の 1918 年～ 19 年（大正 7 年～ 8 年）、第一次世界大戦中に疫病の大流行（パンデミック）、いわゆる「スペインかぜ」が発生しました。世界の感染者数は当時の人口の 3 分の 1 に相当する約 5 億人、死者数は 4000 ～ 5000 万人、日本でも感染者数 2300 万人、死者数 38 万人と報告されています。当時の人々にとって非常に脅威であったことは明らかです。病原体が A 型インフルエンザウイルスであったことは、後々明らかになりました。

昨年 12 月から中国武漢で発生し、日本国内でも 1 月から感染者が確認された新型コロナウイルス感染症は、今や世界的なパンデミックとなり、私たちの日常生活に大きな影響を及ぼしています。医学の進歩により、原因ウイルスは早期に特定されましたが、感染防止策は、適切な外出自粛のほかに、マスク着用・ソーシャルディスタンス・リモートワークの推進による濃厚接触の回避、手指や身の周りの消毒など、限られた方法にとどまっています。ワクチンや治療薬が待ち望まれ、世界中で研究は進んでいますが、現時点でまだ確立されていません。

日本全国でみると 4 ～ 5 月に感染のピークを迎え、緊急事態宣言が解除された後も近隣では幸い新規発症者は確認されていません。しかし都道府県境をまたぐ移動が解除され、今後、感染者数の増加が懸念される中、感染防止対策を意識した取り組みが非常に重要となっています。

私たち平田ロータリークラブも、3 ～ 5 月まで例会の自粛や多くの行事を中止せざるを得ませんでした。新型コロナウイルス感染症の「終息」は全く見通せない状況にあります。ロータリーの活動を継続するために、例会・奉仕活動の新たな取り組みを模索しています。



平田ロータリークラブ会員名簿

会長 持田 稔樹
幹事 杉原 朋之

副会長 釜屋 治男
副幹事 原 泰久

令和 2.7.1 現在

氏名	職業分類
遠藤 栄	ガス供給
福田 磨寿穂	司法書士
河原 治子	医療法人
原 伸雄	印刷
原 孝士	印刷
原 泰久	飲食業
重親 政継	商業銀行
堀江 卓男	ホテル
飯塚 大幸	仏教
飯塚 詔夫	呉服
飯塚 俊之	米穀業
石原 俊太郎	石油卸販売
石原 輝男	薬剤師
板垣 文江	社会保険労務士
伊藤 義徳	産婦人科医
釜屋 治男	司法書士
神田 慎一	美術商
加藤 昇	文房具販売
清原 正幸	自動車販売
黒田 昌弘	税理士
來間 久	菓子製造販売
久家 正義	菓子製造販売
牧野 昭雄	循環器科医

氏名	職業分類
槇野 良文	電気
松浦 剛司	ケーブルテレビ
三好 洋平	銑鉄鑄物製造業
持田 稔樹	建設業・建築
持田 祐輔	清酒製造
小汀 泰之	税理士
大島 淳司	事務用品販売
大島 卓爾	私立学校
大谷 厚郎	電車
大谷 良治	印刷企画
佐々木 哲也	胸部外科
園山 繁	ホテル
杉原 朋之	葬祭業
高砂 明弘	醬油製造
田中 浩史	写真用品販売
土江 光二	土木・土工・浚渫業
恒松 克己	口腔外科
内田 節夫	保険代理業
山根 章一	板金工作

平田ロータリークラブでは、新しい仲間を募集しています。
私たちと一緒に奉仕の活動に参加してみませんか。
お待ちしております。

